

堺化学のマテリアリティとKPI



テーマ	マテリアリティ	堺化学の主な取り組み	KPI指標		
			指標	目標	実績
人々を 幸せにする	(1) 人材を育成し、成長を実感できる風土を醸成する	挑戦する仕組み・能動的に行動する仕組みを整備する ダイバーシティの推進	ストレスチェック実施結果 キャリアへの配慮項目の偏差値	ストレスチェック実施会社の集計による 化学工業の偏差値を上回り、上位を目指す 化学工業偏差値 2021年度 50.4 (当社実績2021年度 46.9)	化学工業平均 偏差値 2022年度 50.5 (当社実績 2022年度 47.5)
	(2) 働きやすい環境をつくる	新人事制度の導入 働く環境(場所、時間)を整備する 活力のある職場環境づくり	度数率(100万延べ実労働時間当たりの 労働災害死傷者数) 強度率(1,000延べ実労働時間当たりの 延べ労働損失日数) DX推進	安全を第一に働く職場環境を整備 化学工業度数率 2020年度 0.93 (当社実績2020年度 0.70) 化学工業強度率 2020年度 0.03 (当社実績2020年度 0.00) DX推進の継続	化学工業度数率 2021年度 1.07 (当社実績 2021年度 0.69) 化学工業強度率 2021年度 0.02 (当社実績 2021年度 0.00)
	(3) 地域社会に貢献する	地域社会との対話 地域団体への協賛加盟	レスポンシブル・ケアなどによる地域対話 協賛加盟団体での社会貢献活動への参画	年間1件以上 年間1件以上	渡辺下町区専門委員会、下川を考える会、 泉ふるさと祭り、堺まつり いわきサンシャインマラソン、堺科学教育フェスタ etc.
地球環境を 守る	(4) 化学物質を適切に管理し、 環境負荷の低減と製品安全性の 向上を実現する	燃料転換(重油→LNG)、高効率モーター、LED照明への更新 太陽光発電パネルの設置 NH ₃ 、CO ₂ 、H ₂ 回収への取り組み 公害防止と化学物質管理レベル向上	CO ₂ 排出量削減率(2013年度比) 重大な環境事故発生件数	2030年度30%削減 0件/年	2021年度14%削減 2022年度 1件/年 小名浜事業所火災事故
	(5) 産業廃棄物の排出量を削減する	3R(Reduce、Reuse、Recycle) 推進 原燃料・生産プロセスの見直し 産業廃棄物の再資源化	産業廃棄物削減率(2021年度比)	2025年度25%削減	
	(6) 生物多様性に配慮する	処分場周辺におけるモニタリング活動の継続 CNLのボランティアークレジットにより生物多様性に貢献する	環境影響評価の事後評価として、動物、 植物、生態系調査を実施 CNL導入	処分場工事に合わせた調査の実施 CNL導入の継続	2022年度CNL導入の継続
モノづくりで 社会の課題を 解決する	(7) 環境や社会の課題解決につながる 製品やサービスを創造する	全固体電池材料、アンモニア合成触媒 マイクロプラスチックビーズ代替製品 5G関連(低膨張、放熱、低誘電損失、難燃)材料 カーボンリサイクル触媒、抗菌抗ウイルス材料	「Smart Material®認定製品」開発件数	2030年度までに5件上市	
	(8) 責任ある調達を推進する	調達先への周知・協力依頼、取引先への監査など	取引先への顧客満足度調査の依頼率	100%	2023年度より実施
透明で強固な 経営体制を築く	(9) 取締役会の実効性を高める	取締役実効性評価アンケートの実施(毎年1回) アンケート結果に基づく改善の実践 経営人材育成プランを作成 指名報酬委員会の運営	取締役会実効性評価アンケート結果を踏まえ ①抽出した課題の数 ②各課題について議論した回数および延べ時間数 ③導き出した対策数 ④対策の実行数	実効性アンケート結果からの課題抽出と 改善の実施	2022年度 実効性アンケート結果からの 課題抽出と改善を実施
	(10) リスクを把握し対策を講じる	リスク・コンプライアンス教育・研修・周知活動の実施 委員会・部会の効果的な運営	重大なコンプライアンス違反件数 全社的リスク管理体制を維持できている	0件/年 有効な状態を維持	2022年度 0件/年 2022年度 有効な状態を維持
	(11) 適時・適切に情報を開示する	IR・広報活動の活性化、危機管理広報の充実	統合報告書またはそれに準じた内容の 情報作成と提供	2022年度分より、統合報告書または それに準じた内容の提供	2022年度分の発行は断念し、 2023年度分を発行する